

はじめに



みなさんは「愛知大学公館」という建物を知っているでしょうか。豊橋市にある愛大キャンパスは広いし、古い歴史的な建物も多いから、その中であって、キャンパスを訪れた時にどこかで見たかも、と思われるかも知れません。しかし、愛大の学部やグラウンドが揃うキャンパス内にはないのです。しかも、多くの人には知られていない「幻」の公館なのです。

正確には、キャンパスの北端から約500mほど北東方向へ離れた高師の丘の一角にあり、すぐ下を通る道路からも見えないという「秘密」の？場所にあります。そう、「幻」の、「秘密」の場所にあるのです。

「ヘエ、それは知らなかった。そこには宝物でもあるのですか」

「ハイ、気になりますよね。実は宝物があるのです。金や銀の宝物ではなく、建物が宝物です」

「なんだ。建物か……」

「そう、建物です。それも極上の建物です。しかも歴史を刻んだ建物です」

「ホント？ マジ？」

「マジですよ。今から2年ほど前、たった2日間だけですが、建築100周年記念で建物を公開したのです。そしたら」

「そしたら、何です」

「たった2日間でなんと1,000人もの人々が市内だけでなく、愛知県一円や浜松方面からも押しかけてくれたのです」

「ヘエ、マジ？ 建物見学の目的だけで？ なぜ？」

「ビックリしたでしょう。多少公館の存在を知ってたり、もっと知りたい人々が見学に来てくれたのです。みなさん、感動され、地域の宝物にしたいと……」

「知らなかったなァ。一体、その公館てどんな建物？ 好奇心というか、興味が湧いてきましたよ」

「興味か湧いてきたって……うれしいね。公館は「幻の」「秘密」の場所に100年間も建てていたから、100年目を迎え、今はもう自分のことを喋りたくて仕方がない雰囲気だよ」

「エエ！ 建物がお喋りするの？」

「というわけにはいかないから、公館の喋りたい気持ちを汲んで、この本でお伝えするよ」

「納得」

「明治以来公館が過した100年の流れを少し知ってもらうけど、なるべくわかりやすく伝えられるようがんばってみるよ」

「(拍手)」

「では次のページからまじめにお話しをすすめるよ」

目 次

はじめに

I 愛知大学公館100年物語	5
第1章 公館(師団長官舎)の誕生	6
1. 豊橋に旧陸軍第15師団を誘致	
(1) その前史をみる	
(2) 豊橋への第15師団の誘致とまちづくり	
2. 第15師団師団長官舎の完成とその構成	
(1) 師団長官舎が高師の丘に完成	
(2) 師団長官舎の構成は和洋折衷のオリジナル	
3. 歴代の師団長の変遷と久邇宮殿下師団長への歓迎	
(1) 歴代の師団長は7人	
(2) 久邇宮殿下 ^{くにおのみや} 邦彦王 ^{くによし} の着任と良子女王 ^{ながこ} の婚約内定	
(3) 軍縮による第15師団の廃止と施設利用	
第2章 愛知大学「公館」としての再生	16
1. 愛知大学の設立と公館	
(1) 東亜同文書院大学から旧制愛知大学の設立	
(2) 愛知大学の「公館」として「再生」する	
2. 公館利用の展開	
(1) 公館利用と「知のサロン」へ	
(2) 接收の危機とそれを乗り越えた「公館」	
(3) 本間・小岩井両学長の引退と揺れ始めた「公館」	
第3章 公館の再評価	22
1. 建築史上からの再評価	
(1) 畔柳武司「愛知大学(旧陸軍第15師団)」(1981年)	
(2) ハンス・ラングリーガー「愛知大学公館調査」(1997年)	
(3) 坂本勝比古・小野木重勝「旧陸軍第15師団長官舎」(2001年)	
(4) 愛知県史編さん室編「師団長官舎」(2006年)	
2. 公館への夢と熱き想い	
(1) 迎賓館構想の夢(2003年)	
(2) 山口恵里子氏が描く「公館」シリーズ	
(3) 公館見学会にあふれた熱気と思い(2012年)	
おわりに	
参考・関連資料と文献	
II 愛知大学公館アルバム	29
● 写真集	北側外観、南側外観、公館館内洋室、公館館内和室
● 資料集	「愛知大学公館特別展—築後100年の洋風建築をめぐって—」(2012年)
	公開資料／陸軍第15師団長官舎・愛知大学公館関連年表
	接收の危機を乗り越えた公館
	「公館見学会」参加者アンケート結果
	新聞記事

あとがき